劇団文化座公演155

炎の人

作＝三好十郎
演出＝鵜山仁

［スタッフ］
美術＝乗峯雅寛
衣裳＝岸井克己
音楽＝高崎真介
照明＝古宮俊昭
音響＝齋藤美佐男
舞台監督＝金安凌平
宣伝美術＝司修
演出助手＝姫地実加
制作＝国広健一
　　　小林悠記子
企画・製作＝劇団文化座

ゴッホの手紙

司　修

岩波文庫の『ゴッホの手紙（ベルナール宛て）』（硲伊之助訳）は、パリからレンタカーのワーゲンでスペインへ行くために立ち寄った二回と、マルセイユへの取材で二回、電車で行って滞在したとき、ポケットに入れて行ったのです。悪い癖で、表紙がなくなるまで同じ本を読みつづけます。

その四回目のときは、馬鹿の見本のごとくアルルの民宿的ホテル「ゴーギャン」に泊まって、ゴッホの『夜のカフェテラス』の椅子で夜が更けるまで飲んだくれていました。あの絵のままのテーブルと椅子、夜露をしのぐテントにオレンジ色の照明が演出されていて、夜空の星も絵のままでした。ゴッホにいれこんでいたわけではないのですが、そうしたかったのです。

夜になると石畳の細い道をぶらり歩くのでしたが、カフェでワインを飲みながら『ゴッホの手紙』を読んでいると、うとうとして、夢を見るのでした。

いつも通り過ぎるローマ時代の巨大建造物が、川の底に沈んでいるのですが、淀んだ川面には、小舟が沈みそうになっていました。目覚めればあの「夜のカフェテラス」でした。

「夜のカフェテラス」1888年(81.0㎝×65.5㎝)　Alamy/PPS 通信社

アルルでのゴッホが、「なんでも日本人たちは極く僅かの金しか稼がず、普通の職人のような生活をしたそうだ」とベルナールに書いているのを読むと、そういう時代がたしかにあったのだと思うのでした。ゴッホは、浮世絵から想像しているのだと思います。「日本の芸術家たちがお互い同士で作品を交換したことに、僕は前から感心していた。それはお互いに愛し合い助け合っていたしるしだ、彼等の間にはある種の融和があったに違いない。きっと情誼に厚い生活で、もちろん、陰謀もないだろう」。わたしは、日本人もずいぶん変わってしまったと独り言をいいました。

（つかさ おさむ・画家）

『図書』2019年2月号(岩波書店)より
＊表のひまわりの絵は司修氏による「自由なる模写」

文化でつながる。未来とつながる。
Tokyo Tokyo FESTIVAL

ゴーガンを黄色い家へ迎えるために描いたひまわりの絵をゴッホは切り裂いた。

文化座を切り開いた演出家・佐佐木隆のかたむけた「炎の人」を、この時代に！

作・三好十郎　演出・鵜山 仁

炎の人

ヴィンセント・ヴァン・ゴッホに拍手をおくる！
飛んできて聞け！

no.155
劇団文化座
BUNKAZA

2020/2/20（木）～29（土）

こくみん共済 coop ホール（全労済ホール）／スペース・ゼロ

【お問合せ・お申込み】
劇団文化座　TEL 03-3828-2216(月～土 10:30～17:30)
Eメール info@bunkaza.com

出演者

ゴッホ
藤原章寛

Vincent van Gogh

有賀ひろみ

阿部勉

津田二朗

筆内政敏

井田雄大

小川沙織

市川千紘

桑原泰

砂川直哉

仁平天峰

深沢樹

青木和宣

高村尚枝

米山実

沖永正志

白幡大介

岡田頼明

萩原佳央里

田中孝征

岩崎正芳

大鳥鈴乃

琴音

ゴーガン

鍛治直人（文学座）

新井純（フリー）

佐々木愛

配役

ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ……藤原章寛

プチ・ワスムの小屋

アンリ（炭坑夫）……白幡大介（二役）
ヴェルネ（炭坑夫）……阿部勉
ハンナ（ヴェルネの娘）……市川千紘
デニス（炭坑夫）……田中孝征
ヨング（牧師）……井田雄大
老婆……有賀ひろみ

ハアグの画室

テオドール・ヴァン・ゴッホ……岡田頼明
シイヌ（モデル女）……小川沙織
ワイセンブルーフ（画家）……米山実
モーヴ（画家・ゴッホの従兄）……砂川直哉
ルノウ（食料品店のおかみ）……高村尚枝

タンギィの店

ベルト・モリソウ（女流画家）……新井純（フリー）
ロートレック（画家）……津田二朗
エミール・ベルナール（画家）……桑原泰
シニャック（画家）……白幡大介（二役）
若い夫（八百屋）……筆内政敏
その妻……萩原佳央里
中年の男……岩崎正芳
画学生……仁平天峰
若い娘……大鳥鈴乃
タンギィ（パリの絵画屋）……青木和宣
おかみ（タンギィの妻）……佐々木愛

アルルで・黄色い家で

ルーラン（郵便配達夫）……沖永正志
ラシェル（酒場の女）……琴音
若い看護婦……深沢樹
ポール・ゴーガン……鍛治直人（文学座）

「炎の人」は三好作品の中でも特に名作と謳われ、これまで多くのカンパニーで上演され、そのたび大きな話題となってきました。文化座では1958年に佐佐木隆（文化座創立者）演出で初演。無名の芸術家の無垢な魂と彼を支えた人々を丁寧に描き出して、その年の文部省芸術祭団体奨励賞を受賞し、その後、2度にわたり全国公演を果たしています。
文化座の描くゴッホは、あくまでも若くて、未熟で、孤独です。
しかし、彼の人生には実に多くの人々が関わっています。実の弟テオドールは生涯をかけて兄の才能と貧しい生活を支えます。画家としての親友にしてライバル、ゴーガン（ゴーギャン）は芸術家としての強い自信と反逆精神をもって彼に向き合います。そのほか、彼を愛し、励まし、何らかのかたちで彼の人生の伴走者となった人々……。
私たちは、登場人物ひとりひとりに限りない愛情をそそいだ三好十郎の魂を再び呼び寄せてみたいのです。私たちの願いを、演出家の鵜山仁氏が引き受けて下さいました。
いま再び挑む、文化座の「炎の人」。どうぞご期待下さいませ。　佐々木 愛

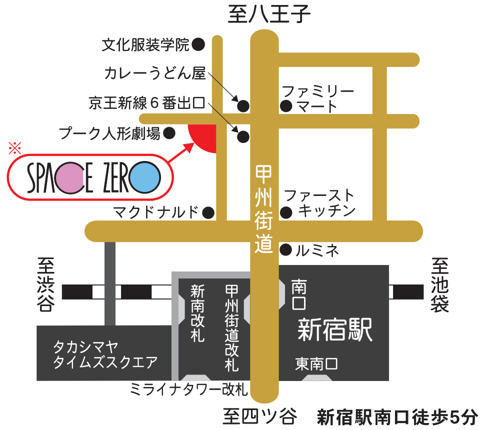
●公演日

2020年2月20日㊍▶29日㊏

●会場

こくみん共済 coop ホール（全労済ホール）／スペース・ゼロ

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-12-10 1F
［代表］03-3375-8741（平日 10:00～17:00）
［アクセス］JR新宿駅南口より徒歩5分
京王線・都営大江戸線・都営新宿線
新宿駅6番出口より徒歩1分



※2019年6月より「全労済ホール」は「こくみん共済 coop ホール／スペース・ゼロ」になりました。

●料金

一般前売　5,000円（当日5,500円）　Uシート　4,000円
25才以下　3,500円　高校生以下　2,500円　［全席指定／税込］

※Uシート、25才以下、高校生以下については劇団でのみ取扱い。
※Uシートは座席の一部（前方端席など）を割安の料金で観ていただくシステムです。
※都民フェスティバル参加／通常よりお求めやすい料金設定になっています。

e+（イープラス）http://eplus.jp
ローソンチケット
スペース・ゼロ　チケットデスク
URL：https://www.spacezero.co.jp/（インターネットのみ）
チケットご予約専用フォーム
文化座HP　または　QRアクセス

★23日(日) 出演者によるアフタートーク

	2月 20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水	27 木	28 金	29 土
14:00開演		○	○	★	○	○		○	○	○
19:00開演	○					○	○			

開場は開演時間の30分前

●お問合せ・お申込み

文化座 TEL:03-3828-2216（平日 10:30～17:30）
E-mail：info@bunkaza.com